平成22年11月15日発行
第47号
全戸配布用
http://www.geocities.jp/xmitsugi/mini/

わが街 太子堂・三軒茶屋 スポットライト

発　行：太子堂連合町会
ミニコミ紙編集委員会
事務局：太子堂出張所
電　話：3413-1247

身近なまちづくり推進協議会 各部会活動状況

一、生活環境部会　部会長　辰巳知勝

○世田谷区内で一番放置自転車が多いのが三軒茶屋駅付近です。

そこで、地域の人たちと行政の人たちが協力して、十五年以上前から放置禁止の啓発を行ってきました。

また、同時に駅周辺の清掃も行ってきました。

朝、お忙しいにもかかわらず、放置自転車のない、ゴミの落ちていない、環境の良い町にしたいという思いでクリーンキャンペーンに参加していただいている方たちに感謝しています。

○太子堂中学校の生徒、PTA、青少年地区委員の方たちと一緒に町の清掃活動を行いました。

○さぎ草の植え方を教えていただく講習会を二月に開き、成長したさぎ草を持ち寄って展示会を八月に開きました。

○太子堂小学校の前の緑道脇に、三年生と一緒に、春と秋に、花や球根を植えました。

入学式の頃、桜、ヒヤシンス、水仙、チューリップ、ビオラが咲いて、新入生を迎える事が出来ます。（写真）

子どもたちが学校前に花を植えることは、身近な環境美化に取り組む小さな一歩になると思います。

二、健康増進部会　部会長　神田安則

「身近なまちづくり推進員」から「身近なまちづくり推進協議会」と名称が変わっても健康部会の事業内容はあまり変化はありません。「身近なまちづくり推進員」当時の腕章が今でも手元にあります。このときは腕章とバッジをセットでいただき活動費が支給されました。今と比べると重い責任のある仕事であったと実感しています。昭和五十四～五十五年頃より活動が始まったと思います。このときから「健康部会」一筋で今日に至っています。

この頃の活動はおもに、ゲートボール、健康講演会、歩行会でしたが現在の事業内容も、健康教室、中学生交流ボウリング大会、歩行会二回、健康講演会、回覧による胃がん・大腸がん検診等で多少手を加えたに過ぎません。太子堂は小中学生と地域の交流がとても盛んで、なくてはならない存在となっています。ボウリングに参加して中学生の活躍をみて欲しいと思います。

今年六月に実施した健康教室のテーマは『尿もれ予防の体操とお話』で四回の開催にのべ一〇三名の方が参加してくれました。十二月の『健康講演会』は健康教室のテーマを医師の立場からお話していただくことになっています。

『健康部会』は、やはり貸切バスでの《歩行会》ではないかと思います。いつまでも健康でいたい、自分の足で歩きたい、そんな思いは誰も一緒だと思います。町の喧騒を離れて歩く、吸い込む空気に味がある、血液もきれいになるのではないかと思わせてくれます。今年の行先は“三波石峡”ですがどちらかというと冬桜で有名なところです。桜と紅葉の競演を同時にみることができるかもしれません。すばらしいと思います。

“自分の健康は自分でまもる”まず始めの一歩はできることから始めてください。そのきっかけ作りに健康部会の行事に参加をしてみてはいかがでしょうか。

サバイバルキャンプ

太子堂小学校一年　わたなべ　こうたろう

七月二十四日にがっこうのサバイバルキャンプにいきました。けがをした人をたすけるれんしゅうでくるまいすをおしました。ドラムかんぶろにもはいりました。ぼくは、ともだちと三にんではいりました。もぐったり、おゆがこぼれたりしてとてもたのしかったです。カレーライスもつくりました。レンガをたてて、火をもやしてつくりました。おいしかったです。

太子堂小学校一年　やまい　そら

ぼくとおとうととままとサバイバルキャンプにいきました。一ばんたのしかったのはドラムかんのおふろでともだちといっしょにどっちがながくもぐれるかきょうそうしてまけたことです。じぶんのいえとちがってからだとあたまをあらわないからよかったです。

じしんのビデオをみました。ぼくのすんでいるところにきたらこわいなとおもいました。

よるにたいしどうちゅうがっこうでみんなといっしょにねたのがたのしかったです。とてもたのしかったです。

太子堂中学校一年　遠藤　藍梨

私は、初めてサバイバルキャンプに参加しました。地域の人から保護者の方々までたくさんの人がいました。太子堂のサバイバルキャンプはすごいなと改めて思いました。

サバイバルキャンプでは、たくさんの事をしました。例えば、班の人と協力して、人を助けに行く訓練やカレー作り、班対抗のドッジボールをしたり、夜は学校に、泊まったりと、楽しい事や大変な事をしました。ほかにも、災害のビデオを見たりもしました。

本当に、災害が起きたら大変だなと思いました。そのために、日頃からちゃんとしていたいです。また、サバイバルキャンプでやった事も、災害が起きた時に生かせたらいいです。

太子堂ふれあいまつり

太子堂小学校三年　おか田　なな

わたしの夏休みの一番の思い出は、ふれあい祭りです。わたしは、ふれあい祭りで、おはやしをやりました。まず、たいこのなげあいというおみこしの時の音色をたたきました。ぶじに終わってホッとしました。次にインバという音色の時に、わたしはおかめさんをやりました。おどっている時は、メモに書いたことを頭の中で思い出しながら、「これはこう」と考えておどりました。きんちょうせずにさいごまでおどりきることができました。この日のために、がんばって毎日練習してきました。早くたたくのがむずかしかったけれど、たくさん練習したので、大せいこうできたのだと思います。これからも練習をがんばっていきたいです。

太子堂中学校二年　熊谷　未来

私がふれあい祭りでやった事は、ボウリングでした。ボウリングは、最初は大変だったけど、やっているうちに少しずつリズムがつかめてきて、交代する時には、もう少しやりたいなと思いました。

あとは特に何もなく、三角ネットに座って焼きそばを食べたりしていました。少し印象に残っているのは、焼きそばが空になったプラスチック容器を捨てる時です。最初、どこにプラスチック容器や割りばし、輪ゴムを捨てるのか分からなかったけど、三年生の先輩方や大人の方々が手伝ってくれて、すぐにゴミを分別する事が出来ました。私はあまりに速くおわったので、工場のベルトコンベアーに乗って、周りのロボットに手を加えられている何かの製品みたいだなと思い、ゴミの分別は大切だなと思いました。

＜行事報告＞

7月17日	ボウリング大会(115名参加)
7月24～25日	サバイバルキャンプ(太子堂中)
8月21日	ふれあいまつり(1,280名参加)
9月12日	フリーマーケット
10月 9～10日	太子堂八幡神社御祭禮
10月23日	古布回収（8,560Kg回収）
11月 7日	ゴミゼロデー

＜行事予定＞

12月 1日	歩こう会(藤岡市三波石峡)
12月 5日	太子堂もちつき大会(太子堂小)
12月 8日	健康づくり講演会(キャロットタワー)
2月13日	太子堂子どもマラソン大会

三軒茶屋・太子堂にチンチン電車が走っていた

郷土史研究家（太子堂本町会相談役）　中村　甲

沿線の人々は、その電車を親しみを込めて「チンチン電車」と呼んだ。昔の玉電のことで現在の東急世田谷線である。一車輛で運転士が前で後ろに車掌がいて、乗客が全員乗ると車掌が紐を引っぱると運転手席に知らせる鐘がついていて「チンチン」と音がする、そして発車する、大変素朴な風景であった。私は昔から通学・通勤・所用で長年お世話になっていて思い出が多い。「玉電」の愛称で呼ばれていたが、最近は「せたまる」として親しまれている。

三軒茶屋交差点を通過する玉電
昭和43年（1968）撮影［武藤直樹氏］

手前の車両は二子玉川行き、右奥の車輛は下高井戸行き（渋谷方面を背にして世田谷通りを望む）

チンチン電車が運行していた区間は渋谷―二子玉川、二子玉川―砧、渋谷橋―天現寺橋、渋谷―下高井戸等である。「玉電」の正式な名前は、玉川電気鉄道㈱と云い、資本金四十万円、本社は東京市麹町区内幸町で明治三十六年十月四日に発足している。主な役員は世田谷出身の人々である。玉電は地元の人達が創立した。

玉電沿線には、軍事施設が多かった。部隊名を挙げると、近衛砲兵隊・近衛し重隊・騎兵連隊・し重一連隊・野砲一連隊・野戦重砲連隊・陸軍獣医学校・陸軍第二衛じ病院・駒沢練兵場・兵舎・馬小屋・官舎・将官将校や勤務者の家族住宅が多くあった。それに伴い陸軍御用達の商店街等があり町は賑わった。玉電大橋―三軒茶屋間の軍人優待乗車券も発行されていた。創立当時（明治中頃）を振り返ってみると渋谷を起点として大山街道（玉川通り）沿いに市内線が計画され、地主さんや社寺の協力があって出来た線であった。線路を敷設し砂利・旅客運送に始って、沿線開発事業を行いまさに都市計画の街づくりであった玉電本線は新玉川線（田園都市線）として地下鉄になり西は小田急線の中央林間、東は東武伊勢崎線の南栗橋まで直通で旅が出来るようになり便利になった。始発駅であった渋谷が大発展したのは世田谷及び付近の住民が買い物や所用のため出かけた結果だと思う。今渋谷は全国的に有名になった。

三軒茶屋は、三軒茶屋と太子堂の交差点である、西へ延びる道世田谷通り、左へ向かうのが国道２４６号玉川通り、右へ折れ込む道が茶沢通り、２４６号が道路拡幅したのは東京オリンピックのためで三軒茶屋が大きく変わった。茶沢通りは昔の時と道路幅は同じである。

玉電の一部は世田谷線として今も三軒茶屋―下高井戸間を走っている。

東京では城東の都電荒川線と城西の東急世田谷線が都内の路面電車として、ヒューマンスケールと親しみやすさで、最近見直されてきている。昔大山道の追分に茶屋が三軒あった三軒茶屋もキャロットタワーや高層ビル等も出来て大きく発展している。世田谷線の電車のドア開閉時には「ピンポン」と鳴る。現在ピンポン電車となっている。

神輿新造に寄せて

五丁目町会成年部長　高安謙蔵

八幡神社の祭礼に、宮元である太子堂五丁目町会は子供神輿を町会の神輿として巡行しております。祭礼は子供中心に行われておりましたが、大人神輿は中神輿を借り、成年部が中核となって町内を巡行しておりました。

以前には、現在の子供神輿と対をなして大人神輿があり、その巡行は結構な賑わいであったそうです。その大人神輿は祭りの最中のもめ事から、他所からの担ぎ手によって、前田橋から烏山川（現在の緑道）へ投げ出され壊れてしまったとのこと、戦後の混乱期の名残があった時代、そう珍しい出来事ではなかったかも知れません。その後、社会の核家族化と言われる現象とともに、町内でも若い家族は郊外に移り、担ぎ手は大人も子供も少なくなり、子供神輿は下火になってしまったそうです。そのような神輿の巡行もままならない当時の状況を憂えて、三十年ほど前に、子供達の為、若手の方々が現在ある子供神輿巡行を復活させたということです。

当時は、神輿の準備、巡行路の設定、休憩所の設営、巡行後のお土産の配布その他に試行錯誤し、それらの活動が下部組織としての成年部の基礎に繋がったと言われています。

多くの方々の協力で成り立つ八幡神社のお祭り。それ故に町内の最大の行事となっています。

この活発になった祭礼を経て、長い間なかった大人神輿を新造しようという思いは何年も前からありました。その間、様々な問題に諸先輩方が苦労されましたが、ここに機が熟し、念願の御神輿を新造することができました。

この神輿は五丁目町会員はもちろん関係の方々のご厚意の賜物であり、この神輿はそれらの方々の神輿です。これからも毎年、子供神輿のあとで巡行いたしますが、担ぐのは町会員やそのお知り合いの方々です。自分の住む町の御神輿として、出来るだけ大勢の方に参加して頂き、担いで頂きたく思います。

名園を訪ねるシリーズ ④

浜離宮恩賜庭園（中央区浜離宮庭園一の一）

浜離宮（浜御殿）は、承応元年（一六五二）四代将軍家綱が甲府宰相の松平綱重に下屋敷として与えたもので、別名「甲府浜屋敷」と呼ばれた。宝永四年（一七〇七）、水門から海水が流入する池や茶屋を造り、自然を巧みに利用した江戸時代の代表的庭園に大改修し、歴代将軍の保養所として生まれ変わり「浜御殿」と呼んだ。その後数回の改修を経て明治四年、「浜離宮」と命名されている。

明治時代には庭内の「延遼館」を外国高官の宿泊所に利用していたが、昭和二十一年四月から「浜離宮恩賜庭園」と命名され、東京都の管理の下に一般に公開されている。

昭和二十年代の浜離宮は、現在の落ち着いた雰囲気とは異なっていました。昭和二十五年にはキャンプ場が開設されキャンプファイヤーやホタル狩りが行われ、昭和二十八年七月には、日本開国百年記念の「東京まつり」の一環として日本児童親善交歓会が催され、また花火大会が八月、十一月の二回行われ翌二十九年には運動会や撮影会などのイベントが盛んに行われていました。現在の野外卓広場はかっての運動場でした。

交通

ＪＲ・東京メトロ銀座線・都営浅草線「新橋」下車徒歩十分。

都営大江戸線「汐留」「築地市場」・ゆりかもめ「汐留」下車徒歩七分。

水上バス（両国↕浜離宮）（浅草↕浜離宮↕日の出桟橋）。

入園料

一般　三百円、六十五歳以上　百五十円

（ミニコミ　Ｍ・Ｉ）